

観光社会資本の事例

テーマ	観光放流と水の郷を中心とした宮ヶ瀬湖周辺のにぎわい	
【施設の状況写真】		
		
<p>毎週水曜日、第2日曜日の 11:00、14:00 に最大毎秒 30m³ を放流する観光放流には多くの観光客が集まります。</p>	<p>宮ヶ瀬湖畔の観光拠点「水の郷」には、クリスマスツリーの点灯時等に多くの観光客が訪れます。</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>鳥居原ふれあいの館(いえ)では、産直野菜などを販売しており、多くの観光客で賑わっています。</p>	<p>水とエネルギー館には、神奈川県内の小中学校を中心に、多くの来館者があります。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>宮ヶ瀬ダムは、丹沢大山自然公園の山並みに囲まれ、年間 135 万人もの人々が訪れます。</p> <p>宮ヶ瀬湖周辺では、ダムサイト・宮ヶ瀬湖畔地区・鳥居原地区の3拠点で年間を通じて各種イベントが行われています。</p> <p>ダムサイトにある水とエネルギー館には、年間約 300 校もの小中学校が総合学習や遠足等で訪れ、水資源やダム建設等について啓発・学習活動を行っています。</p> <p>宮ヶ瀬湖畔地区にある水の郷は、クリスマスツリー点灯等のイベント時には特に多くの人々が集まるほか、通常時でも自然豊かな宮ヶ瀬の風景を觀賞したり、アミューズメント施設を利用する家族連れやカップルで賑わっています。</p> <p>鳥居原地区の「鳥居原ふれあいの館(いえ)」では、四季折々の産直野菜等を販売し、多くの観光客で賑わっています。</p>		

テーマ	観光放流と水の郷を中心とした宮ヶ瀬湖周辺のにぎわい	
【社会資本の基礎データ】		
名称	宮ヶ瀬ダム	
所在地	左岸：神奈川県相模原市津久井町青山地先、神奈川県愛甲郡愛川町半原地先 右岸：神奈川県愛甲郡清川村宮ヶ瀬地先、神奈川県愛甲郡愛川町半原地先	
事業名	宮ヶ瀬ダム建設事業	
事業主体	国土交通省 関東地方整備局 相模川水系広域ダム管理事務所	
事業期間	昭和 44 年度～平成 12 年度	
【社会資本の役割・効果】		
利水効果		
宮ヶ瀬ダムの完成により、水道水として新たに利用される水は1日最大 1,300,000m ³ (お風呂 520 万杯分)で、横浜市や川崎市等神奈川県の 16 市 9 町へ供給しています。給水区域は神奈川県の2 / 3の地域で、県内の約 90%の家庭がこの水を使用しています。		
治水効果		
宮ヶ瀬ダムの完成により、平成 14 年の台風 21 号による出水では、最大 848m ³ /s の流入があったものの、約 850 万 m ³ (ダムの水位が約 2.1m 上昇:東京ドーム7杯分)の洪水を貯留し、ダム下流の洪水を 100m ³ /s に軽減しました。		
発電		
宮ヶ瀬ダムから放流した水を利用して、愛川第1, 第2発電所で発電しています。両発電所併せて一般家庭約 21,000 世帯の年間使用量である最大 25,400kW を発電しています。		
河川環境の改善		
雨が少ないと、川を流れる水量が減り、飲み水や農業用水が不足したり、川に魚が生息できなくなったりするので、そのようなことがないように宮ヶ瀬ダムから貯留水を放流します。		
【位置図】		
		
【関連ホームページ】 相模川水系広域ダム管理事務所 http://www.ktr.mlit.go.jp/sagami/		
宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 http://www.miyagase.or.jp/		